広報 東近江市議会
東近江市民クラブ
発行
東近江市議会
東近江市民クラブ
責任者 畑 博夫

うるおいとにぎわいのまち

東近江市の活性化へ負託に応える

3月定例会
諏訪一男議員が代表質問！

去る2月27日から、新年度予算などを審議する3月定例会（21日まで）が開催され、任期の節目の年となる中村市長の施政方針が述べられ、3月7日には各会派代表による代表質問が、また、3月10日と12日には一般質問が行なわれ、行政側の取り組み姿勢を質しました。

東近江市民クラブは、諏訪一男議員が13項目にわたって代表質問を、一般質問には11人が登壇し、論戦を展開しました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。（後日発行される「議会だより」にも掲載されます。）

市長の決意は。

問 新年度予算について、合併後のまちづくりに取り組む、任期の節目の年となる中村市長の決意は。

答 施政方針で、新市の一体感を目指し、これまでの基礎固めから飛躍への考え方を示した。

合併後今日まで、旧市町の特色を大事にしながら鋭意進め、東近江市というまちとしての原型が出来上がったと考えている。

平成20年度は、節目の年であり、まさに「研ぎ出し・仕上げの工程」と考える。

まちづくりは、終わりのない作業であり、希望が持てるまちづくりが将来にわたり継続出来るよう「布石の予算」と位置づけ、日々緊張感を持ちながら、市政に取り組む。

市立2病院の医療充実は。

問 国立滋賀病院の救急告示病院の認定辞退等、地域医療へ影響があり、市立2病院の医療充実の観点から、根本的な政治的判断が必要と思うが。

答 医師不足は全国的な問題であり、特に、公立中小病院は大変厳しい状況にある。

医師会の先生方にご協力を願い、休日急患診療所の業務を、新年度中に土曜日も診療を開始していただき、病院勤務医の負担軽減に努める。

国立病院機構本部では、滋賀病院の再編・撤退等は一切考えていないとのことである。

市の医療体制について、病院あり方検討会の提言を受け、市立病院等整備委員会で議論をいただいている最中で、市立2病院の体制をしっかりし、滋賀病院との連携を深めていきたい。

市内5民間病院および市内の開業医等、かかりつけ医との連携を図り、市立2病院の役割を果たしたい。

市の財源投入については、経営健全化が図れるまで、ご理解をお願いしたい。

尚、医療法人等による指定管理者制度の採用は考えていない。

通園通学バスは。

問 通園・通学手段は、旧市町での地域の実情や統合経過等を考慮されたものであり、通園・通学バスの見直しは、慎重に行なうべきと思うが。

答 教育委員会では、「バス通園通学検討委員会」を設置し、現在まで5回委員会を開催し、検討を進めている。

利用されている地域の保護者の方への説明会も開催し、今日までの経過や実情があること等の意見をいただいた。

このことを受け、過去の経緯や利用者の思いを受け止め、子どもの安全第一を考え、利用者負担の基準を統一する中で、バス運行の継続を前提にした修正案を示していただき、今月末には、検討委員会の答申をいただくことになっている。

公民館と教育分室は。

問 市内14地区の公民館は、成り立ちの経緯から、3つに分類されているが、最終到達の手法や時期などをどのように考えているか。

答 旧八日市地域の8館は、社会教育分野のほか自治機能を持った運営。旧6町の公民館は、社会教育の交流・学習の施設として運営。内、蒲生・湖東の2公民館は、現在(財)地域振興事業団への管理委託による運営。

公民館・教育分室のあり方について、社会教育委員会議より答申を受け、公民館のコミュニティー化に向け、段階的に推進する必要がある。

また、市内14地区のまちづくり協議会も、その成熟度に差があり、まち協の意向もあり、施設の指定管理については、将来の財政的な自立を視野に入れ、早い時期に組織体制を充実するようお願いし、育成に努めている。

あかね文化ホールは、実質的には職員体制も含め、各々別事業で運営している。

教育分室については、公民館に統合することから、事業団による指定管理体制をとっている蒲生・湖東公民館についても、教育分室業務は、事業団への委託とする。

温暖化防止対策は。

問 平成19年度末で太陽光発電の補助制度が廃止されるが、地球温暖化防止策が叫ばれる中、継続出来ないか。または、制度に替る温暖化防止への代替案は。

答 設置補助制度を合併前の八日市・湖東・蒲生の3地域が持ち、合併後3年間は実施し、見直しを図るとしていましたが、kW当りの設置費用も低下し、この間、500件余りの補助をし、一定の役割を果たしたので、本年度で廃止する。

新年度は、太陽光などの自然エネルギーの推進を図る為、市民出資による共同発電所の調査研究を予定している。

これは、自宅に太陽光発電を設置したくても、物理的に設置出来ない方も含め、より多くの市民の方々の参画が可能となり、地球温暖化防止に向け、市民意識の向上が期待出来ると考えている。

HP（ホームページ）バナー広告は。

問 新たな収入源確保へ、ホームページへのバナー広告など掲載の考えは。

答 ホームページのバナー広告掲載をはじめ、市が使用する封筒や給与明細書など、市の業務全般を通して、収入源を模索することは、重要と認識している。

ホームページのリニューアルに向け、昨年庁内検討委員会を立ち上げ、市民のニーズに対応したシステムについて現在検討中です。

市民の負託に応える
国会陳情活動

私たち東近江市民クラブ（保守系議員会）は、滋賀県第4選挙区選出の岩永峯一衆議院議員事務所を通じて、関係する省庁への連絡をご無理お願いし、昨年11月21・22日の2日間、東近江市としての重要案件（・公立学校施設整備の事業量確保・愛知川・日野川・長命寺川（蛇砂川）改修事業・国道421号の整備促進事業・(仮称)蒲生・湖東三山インターチェンジの整備促進事業・老朽化した農業用水路の整備事業・愛知川沿岸地域における安定用水源の確保・医師確保対策・平成19年度特別交付税等を要望）の陳情活動を実施。

各省庁への陳情先へは、岩永峯一衆議院議員の案内にて、文部科学省文教施設企画部 舌津一良大臣官房文教施設企画部長・国土交通省河川局長・国土交通省河川局 中條康朗局長・実重重実整備部長、門松 武河川局長・同道路局 宮田年耕道路局長・農林水産省農村振興局 岩永浩美農林水産副大臣、若林正俊農林水産大臣・総務省自治財政局 久保信保自治財政局長・厚生労働省医政局 外口 崇医政局長等々へ要望書を手渡しました。

若林正俊農林水産大臣と共に（大臣室にて）

その後、滋賀県出身の藤井勇治衆議院議員・有村治子参議院議員・上野賢一郎衆議院議員・宇野治衆議院議員の方々にも陳情。

2日目は、農林水産省総合食料局食料部 枝元真徹計画課長と同省経営局 山口英彰経営政策課長より農業問題全般について、続いて、厚生労働省年金局年金課 大鶴知之企画官から年金問題について、議員会館特別会議室をお借りして2時間余り研修。

農業問題について研修（議員会館特別室にて）

今後とも、東近江市12万市民の皆様方の負託に応えるべく、議員活動にがんばりますので、東近江市民クラブを今後ともよろしくお願いいたします。

北海道＝千歳市・ニセコ町・江差町へ
友好・親善・視察研修

会派研修として、昨年8月8・9・10日の3日間、北海道方面へ親善訪問を兼ね実施。

初日は、千歳市役所で、経路まちづくり事業での防災学習交流施設について研修。

防災施設は、空港が自衛隊との共有部分の関係から、特別補助金が交付されていました。

2日目は、情報開示を政策に活かされ全国的に有名なニセコ町で、情報公開制度について勉強。（全国から年間1000余人の自治体関係者が訪問）。

当日は、姉妹提携されている滋賀県のマキノ町のこどもたちが、夏休みを利用して親善訪問に来ていました。

庁舎前大通りは、電線が地下埋設され、整然としたまちなみは、活気あふれていました。

最終日は、旧能登川町の姉妹都市江差町を表敬親善訪問を兼ね、観光事業等について研修。

濱谷一治江差町長自らが懇切丁寧にご説明していただきました。

町長の先々代の叔母は、能登川の福堂町出身と聞かされ一段と親しみを増しました。

その後、江差追分発祥の街並みは、ニセコと同様、電線は地下埋設と、幕末のロマンを物語る開陽丸を見学。中でも、重要文化財に指定されている中村家住宅は、大正初期に能登川の種町出身の大橋家から五個荘和田町出身の中村米吉氏が譲り受け、昭和46年国の重要文化財に指定され、同49年に中村家から江差町に寄贈されたもので、往古の松前藩を支えたニシン漁の商家は圧巻でした。

江差町中心街のまちなみ
（左端の白壁の家が中村家住宅）